

# 当社のサステナビリティ 取り組みトピックス



当社のサステナビリティに関する取り組みについて  
2023年度のトピックスをご紹介します。

## 気候変動に関する情報開示

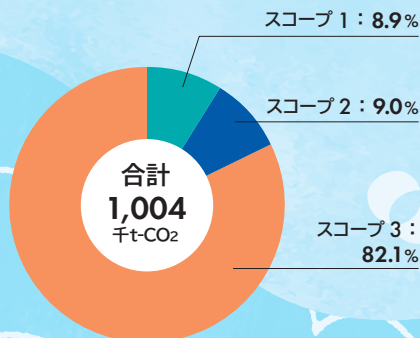
気候変動に関する情報開示の一環として、環境省の「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン」に沿い、国内事業でのサプライチェーン全体における温室効果ガス排出量「スコープ3」を初めて算定しました。2022年度は823.8千t-CO<sub>2</sub>でした。今後も継続的にスコープ3の算定・対象範囲の拡大に取り組むとともに、今回の算定結果を踏まえ、サプライチェーン全体でのCO<sub>2</sub>排出量のさらなる削減を目指します。また、東洋水

産グループの国内即席麺事業および低温食品事業について、気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD: Task Force on Climate-related Financial Disclosures) 提言に記載されているフレームワークに沿った、将来の複数の異なる平均気温上昇条件※でのリスクと機会に関する対応戦略を分析する「シナリオ分析」を開始しています。

※気候変動により、平均気温上昇が最も低く抑えられるシナリオ (1.5℃シナリオ=1.5℃前後の上昇) および最も高くなるシナリオ (4.0℃シナリオ=4℃前後の上昇) で分析

## 2022年度スコープ1、2、3算定結果の概要

- スコープ1、2、3排出量の内訳



- サプライチェーン排出量全般

上流	自社		下流
SCOPE 3	SCOPE 1	SCOPE 2	SCOPE 3
原料の製造、 輸送、通勤など	燃料の 燃焼	電気の 使用	製品の輸送、使用、 加工、廃棄など

上図は「サプライチェーン排出量全般」(環境省)をもとに東洋水産(株)が作成  
[https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply\\_chain/gvc/estimate.html](https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/estimate.html)

## 省エネプロジェクト活動の推進

埼玉工場では、省エネ推進体制を構築し、各課の設備におけるムダの削減を積み重ねることにより工場全体として大きな省エネ効果に結びつける活動を行っています。各課より4、5人の委員を選任し、全体として24人の委員とリーダーからなるプロジェクトチームを発足しました。年間での省エネ効果を数値化して目標を設定し、効果をよりわかりやすくすることで、モチベーションの向上にもつなげています。また、活動内容については社外のアドバイザーの意見を参考にしながら進めています。



埼玉工場での省エネプロジェクト活動の様子

2023年度の省エネ委員会の開催回数 **10**回

## 徹底管理された“安全・安心”品質への取り組み

お客さまに安全・安心な商品をお届けするため、ISO9001やFSSC22000などの第三者機関による認証取得を行うなど、商品の開発から製造・保管・出荷までの品質を保証する体制を整えています。さらに品質保証部ではFSSC22000の内部監査の有効性向上を目指し、内部監査員養成用の教

育テキストを作成するなど研修支援を実施しています。他にも東洋水産グループでは、商品開発時のチェック体制の強化、品質保証部と各工場でのダブルチェックによる品質管理体制やトレーサビリティシステムの構築を行い、グループ全体での品質管理レベルの維持・改善を図っています。

食品安全マネジメントシステム (FSSC22000) 取得状況 **18** 事業所

## 人材の育成 技術伝承学校の開校

先人の知恵や築いた技術を見つめなおし、次世代に正しく伝えることが新たなモノづくりの基盤になると考えています。先人がチャレンジを繰り返し、創意工夫を重ねてきたモノづくりへの熱意や姿勢を理解することで、それらをさらに発展させた安全と安心そして新たな価値の創造を担う人材の育成に取り組んでいます。2016年度に開校し、グループ内の工場での出張技術伝承学校の他、2018年度からは関東工場にて専用の試作ラインを使用した、より実践的な授業を実施しています。



技術伝承学校の様子

2023年度は **11** の事業所で出張技術伝承学校を実施